

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2019.2.15
NO.241
.....

科学教育研究レター



目次

■ 学会賞 2	■ 若手活性化委員会だより18
第 42 回年会発表賞の決定		「平成 30 年度第 3 回日本科学教育学会研究会」報告	
2019 年度学会賞候補者の募集		日本科学教育学会第 43 回年会 若手チュートリアル&スタートパーティ予告	
■ 年会 6	■ 編集委員会だより21
第 43 回年会案内 (第 3 次)		「科学教育研究」投稿・掲載決定状況	
■ 支部・研究会だより10	■ 広報委員会からのお知らせ24
2018 年度研究会開催のお知らせ			
■ 国際交流委員会だより14		
国際学会参加報告 (56)			
国際学会開催情報			

第 42 回 年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では、第 42 回年会発表賞について、会員からの推薦にもとづいて慎重に審議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。平成 30 年 11 月 17 日に開催された第 282 回理事会の議を経て、下記 3 件が 2019 年度年会発表賞に選ばれました。誠におめでとうございます。「*」は現在非会員の方ですが、2018 年 2 月末までに入会された場合は受賞対象となります。

【年会発表賞】

発表者：

奥山英登(国立アイヌ民族博物館設立準備室) ， *中井貴規(国立アイヌ民族博物館設立準備室)，
*笹木一義(国立アイヌ民族博物館設立準備室)

発表論文：

博物館における教育コンテンツデータベースの可能性，第 42 回年会論文集，pp.565 - 566，2018.

選定理由：

本研究では、国立アイヌ民族博物館の 2020 年開館に向けて、教育コンテンツのデータベース化とウェブでの公開を進めるために、博物館の学習プログラムのデータベースであった「PCALi」データを分析している。特に、「PCALi」の 806 の学習プログラムをテキストマイニングし、さまざまな館種の教育コンテンツの紐付けが見えたことで、新しい教育コンテンツ開発の可能性を示唆した点に今後の発展が期待できる。

発表者：

藤原大樹（お茶の水女子大学附属中学校）

発表論文：

中学生の箱ひげ図等を用いた批判的思考，第 42 回年会論文集，pp.139 - 142，2018.

選定理由：

本研究では、新学習指導要領の数学「D データの活用」領域で箱ひげ図が中 2 に位置づけられたことを踏まえ、授業における箱ひげ図等を用いた生徒の批判的思考の様相を分析し、指導への示唆を明らかにしている。本研究は、3 時間扱いの特定の 1 クラスからの速報的な報告であるが、今後研究として深めていく必要のある領域であり、今後の研究の発展が期待できる。

発表者：

中村大輝(町田市立七国山小学校)，山根悠平(日本体育大学大学院教育学研究科)，
*西内 舞(日本体育大学大学院教育学研究科)，雲財 寛(日本体育大学大学院教育学研究科)

発表論文：

科学教育におけるテクノロジー活用の全般的な効果—メタ分析を通じた研究成果の統合—，第 42 回年会論文集，pp.523 - 526，2018.

選定理由：

本研究では、日本国内の初等・中等・高等教育課程の理数授業におけるテクノロジー活用の効果を測定するために、収集基準を設定して J-Stage の掲載論文から 12 論文ほど抽出し、効果量を測定している。今後、多様な統計手法を用いた効果測定は重要な研究領域の一つとして成長していくことが期待され、測定方法の議論が進んでいく過程を通して、研究の発展が期待できる。

公 示

2019 年度学会賞候補者の募集

一般社団法人日本科学教育学会 大塚賞，同学術賞，同国際貢献賞，同論文賞，同科学教育実践賞，同功労賞，及び同奨励賞の候補者を下記により募集します。会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます。

1. 推薦期限

2019 年（平成 31 年）5 月 13 日（月）（必着）

2. 推薦資格

- (1) 推薦者は会員とする。
- (2) 会員は，各賞について，それぞれ 1 件のみ推薦できる。
- (3) 各賞の推薦は他薦のみとする。
- (4) 推薦者は，推薦書の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロードできます）で，入手の上，その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する。
- (5)

3. 受賞資格

- (1) 大塚賞：科学教育に関する著しい業績や貢献によって本法人の発展に寄与した会員とする。なお，本賞の受賞は 1 度限りとする。
- (2) 学術賞：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ，科学教育の発展に寄与した会員とする。対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去 10 年以内のものとする。なお，本賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする。
- (3) 国際貢献賞：科学教育の国際貢献・国際協力研究に関して顕著な業績や功績のあった会員とする。対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去 5 年以内のものとする。なお，本賞受賞後，さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする。
- (4) 論文賞：科学教育に関する優れた研究を行い，その成果を「科学教育研究」に論文として発表した会員とする。対象となる論文は，原則として，推薦期限の日から過去 3 年以内に発表されたものとする。なお，本賞受賞後さらに優れた論文を発表した場合には，その論文について受賞対象とする。
- (5) 科学教育実践賞：科学教育の実践研究に関して顕著な業績や功績のあった会員，または，会員との連携により，科学教育に従事し，顕著な業績や功績のあったグループとする。対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去 3 年以内のものとする。なお，本賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする。
- (6) 功労賞：学会の管理・運営を通じて学会活動の充実・発展に寄与した会員とする。なお，本賞の受賞は 1 度限りとする。
- (7) 奨励賞：科学教育に関する優れた研究を行い，その成果を「科学教育研究」，「年会論文集」，

「研究会研究報告」に発表した若手の会員とする。対象となる論文等は、原則として、推薦期限の日から過去2年以内に発表され、受理の時点で39歳以下のものとする。なお、本賞の受賞は1度限りとする。

4. 受賞件数

各賞の受賞件数は特に定めない。

5. 選考

会員からの推薦に基づいて、学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

6. 賞

- (1) 本賞は賞状とする。
- (2) 賞の贈呈は、2019年度代議員総会において行う。

7. 備考

論文賞の対象は、「科学教育研究」Vol.40, No.2以降に掲載の論文とする。また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol.41, No.2以降、「研究会研究報告」Vol.31, No.7以降及び第41回・第42回年会論文集に掲載の論文等とする。

第 43 回年会 開催案内 (第 3 次)

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 年会テーマ：(検討中)
2. 日程：2019年8月23日(金)～25日(日)(3日間を予定)
3. 会場：宇都宮大学 峰キャンパス
(〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350)
http://www.utsunomiya-u.ac.jp/map/campus_map.php
※同じ宇都宮市内に、陽東キャンパスもありますので、ご注意ください。
※懇親会(24日(土)夕方)は、大学内の生協食堂を予定しています。
4. スケジュール概要(予定)※プログラム編成により変更になる場合があります。
23日(金) 午前：研究発表
午後：研究発表
24日(土) 午前：研究発表, 招待講演(科学教育研究セミナー), 代議員総会
午後：シンポジウム, 懇親会
25日(日) 午前：研究発表
午後：研究発表(申込状況により設定)
※この他、各委員会による企画、理事会、顧問・理事・支部長・代議員合同会議、各委員会の会合等があります。
5. 内容：次の内容を予定しています
(1) シンポジウム(検討中)
(2) 科学教育研究セミナー(招待講演)
(3) 課題研究発表
(4) 一般研究発表
(5) インタラクティブセッション
(6) その他の企画
※年会のタイムテーブルは、2019年3月下旬に年会 Web サイトにて公開予定。
6. 発表申込等について
(1) 課題研究発表の申込・原稿提出
特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします。企画をお持ちの方は応募ください。

<スケジュール (予定) >

- ・企画応募締切：2019年4月26日(金)【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・受理審議：2019年5月7日(火)～5月10日(金)【年会企画委員会】
- ・審議結果報告：2019年5月13日(月)【年会企画委員会 → オーガナイザー】
- ・原稿提出期間：2019年5月20日(月)～6月12日(水)【オーガナイザー → アップロード】

※6月12日(水)は、登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく、オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出(「JSSE 年会申込 Web サイト」からアップロード)する期限です。

<企画応募方法>

- ・年会 Web サイト掲載の方法で、申し込んでください。

<原稿提出方法>

・年会 Web サイト掲載の方法で、「JSSE 年会申込 Web サイト」から必要事項を記入の上、完成原稿(発表1件あたり4ページまたは2ページ)のPDFファイル(1ファイル約1MB未満、セキュリティなし)を提出(アップロード)してください。

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。
- ・登壇者：登壇者を企画受付締切までに確定してください。課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできません。登壇を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください。なお、登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には、申請用紙に記入してください。指定討論者については、重複を認めます。
- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問いません。ただし、非会員による発表件数は、原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません。非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議します。なお、受理された企画であっても、受理後に登壇者の変更がなされ、非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合、受理が取り消される場合もありますので、ご留意願います。

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

<スケジュール (予定) >

- ・申込及び原稿提出期間：2019年5月20日(月)～6月12日(水)
※申込と原稿提出を同時に行ってください。
※期日等に変更が生じた場合は、学会 Web や科学教育研究レターなどで通知します。

<申込及び原稿提出方法>

- ・年会 Web サイト掲載の方法で、「JSSE年会申込 Web サイト」から必要事項を記入の上、完成原稿のPDFファイル(1ファイル約1MB未満、セキュリティなし)を提出(アップロード)してください。
- ・書式や留意事項等の詳細は、「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください。

<資格・登壇可能件数>

- ・登壇者資格：会員でなければなりません。
※本欄における「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します。ただし、

発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度(毎年7月1日から翌年6月30日)をまたぐため、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期(入会手続きの完了時期)については、発表申込及び原稿提出期間の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とします。

- ・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は、各1件です。なお、一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は、課題研究、その他の企画にも登壇することができます。

<発表時間>

- ・一般研究発表の持ち時間は20分程度(発表15分、質疑・討論5分)を予定しています。
- ・インタラクティブセッションは2時間の発表時間を設定する予定です。

(3) 年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては、次の要件を満たすように心がけてください。

◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である。

◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である。

◆研究の背景

関連研究、依拠する理論、関連する実践等によって、研究の背景が明示されている。

◆研究の方法

研究の方法論、手順、計画などが適切で、それらが明示されている。

◆結果と知見

得られた結果、知見、アイデア等が明示されている。

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている。

7. 各委員会等による企画

(1) 若手活性化委員会

- ・23日(金)の午後から夜にかけて、チュートリアル、スタートパーティを計画中です。

(2) 国際交流委員会

- ・25日(日)の昼に、国際ランチョン・ミーティングを計画中です。

8. 論文集USBの廃止について

- ・第43回年会(宇都宮大会)から論文集PDFが収められたUSBの配布を廃止する予定ですので、ご注意ください。要旨集(紙媒体)の配布は、これまで通り継続する予定です。
- ・論文集PDFの事前ダウンロードについては、従来通り、事前参加申込者にパスワードを通知致します。
- ・論文集PDFの年会当日ダウンロードについては、参加受付時に、パスワードとダウンロード方法を明記した用紙を配布し、個人所有のモバイルWiFiルーター等を介してインターネット上で行えるようにする予定です(会場校には、フリーでアクセスできるインターネット環境はございませんのでご注意ください)。また、インターネットを介さないでもダウンロードできるように、当日、ダウンロード用のUSB数本やパソコン数台を用意しておく予定です。

9. 連絡先：日本科学教育学会第43回年会実行委員会

E-mail: jsseutsunomiya43 [at mark] gmail.com

10. 第43回年会実行委員会

委員長 日野圭子 (宇都宮大学)

副委員長 人見久城 (宇都宮大学)

委員 伊東明彦 (宇都宮大学), 川上 貴 (宇都宮大学), 川島芳昭 (宇都宮大学), 瓦井千尋 (宇都宮大学), 久保田善彦 (宇都宮大学), 出口明子 (宇都宮大学), 牧野智彦 (宇都宮大学)

11. 年会企画委員会

委員長 林 敏浩 (香川大学)

副委員長 瀬戸崎典夫 (長崎大学), 向 平和 (愛媛大学)

幹 事 加藤久恵 (兵庫教育大学)

担当理事 大谷 忠 (東京学芸大学), 山本智一 (兵庫教育大学)

委員 川上 貴 (宇都宮大学), 川崎弘作 (岡山大学), 木村優里 (NPO 法人東京学芸大学こども未来研究所), 北島茂樹 (明星大学), 島田和典 (東京学芸大学), 高井吾朗 (愛知教育大学), 高橋一将 (北海道教育大学), 高橋 聡 (東京理科大学), 野添 生 (宮崎大学), 服部裕一郎 (高知大学), 日野圭子 (宇都宮大学), 谷塚光典 (信州大学), 山田真子 (長崎大学)

2018 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部／委員会	開催日	発表申込み締切日	会場
南関東支部	2019年3月16日	締め切りました	麻布大学
四国支部	2019年5月25日	2019年4月15日	高知大学
中国支部	2019年6月1日	2019年4月22日	中国学園大学
関西支部	2019年6月1日	2019年4月22日	姫路商工会議所
東海支部	2019年6月22日	2019年5月13日	愛知教育大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。
※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<http://www.jsse.jp/jsse/modules/note7/>



2018 年度 第 4 回日本科学教育学会研究会（南関東支部開催）

[テーマ] 習得させたい探究技能

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2019年3月16日（土） 13:00～18:00（予定）

[会場] 麻布大学（JR横浜線矢部駅から徒歩5分）

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71

[対象] 会員，教員，学生，社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。参加費は無料です。

[問い合わせ] 2018 年度第 4 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：平田昭雄

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学 自然科学系 理科教育学研究室

Tel/Fax (042-329-7545)

E-mail : hirata (atmark) u-gakugei.ac.jp（平田昭雄）

[発表申込] 締め切りました。

プログラム等の最新情報は、学会 Web ページをご確認ください。
多数の方々のご参加をお待ちしております。

日本科学教育学会 南関東支部長 鎌田正裕（東京学芸大学）

2018年度 第5回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）

[テーマ] 新学習指導要領を見据えた科学教育／一般

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2019年5月25日（土） 10:00～16:00

[会場] 高知大学 朝倉キャンパス 教育学部 51 番教室

〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1

[対象] 会員，教員，学生，社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。参加費は無料です。

[問い合わせ] 2018年度第5回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：中城 満

〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1 高知大学 教育学部 理科教育講座

Tel/Fax (088-844-8413)

E-mail:mit-na(atmark)kochi-u.ac.jp（中城 満）

[発表申込・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員：中城満（高知大学）までお送りください。

発表申込締切は、2019年4月15日（月）です。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <http://www.jsse.jp/~kenkyu/2018/WritingGuidelineFrom2018.pdf>〉

原稿の提出締切は、2019年5月5日（日）です。

次のウェブサイトから投稿してください。

〈<https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「四国支部」を選んでください。

原稿提出が指定の期日に遅れますと、投稿できなくなり、自動的に取り消しとなりますので、ご注意ください。

投稿完了メールは〈[info\(atmark\)jsse-kenkyukai-form.jp](mailto:info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp)〉より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 四国支部長 大橋 淳史（愛媛大学）

2018年度 第6回日本科学教育学会研究会（中国支部開催）

[テーマ] 学びに向かう力を育む科学教育

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2019年6月1日（土） 9:00~16:30（予定）

[会場] 中国学園大学 12号館4階 M405, M406 講義室

〒701-0197 岡山県岡山市北区庭瀬 83 番地

[対象] 会員，教員，学生，社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。参加費は無料です。

[問い合わせ] 2018年度第6回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：佐々木弘記

〒701-0197 岡山県岡山市北区庭瀬 83 番地 中国学園大学 子ども学部 子ども学科

Tel (086-293-2831)/Fax (086-293-2854)

E-mail : hironori_sasaki(atmark)cjc.ac.jp (佐々木弘記)

[発表申込・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員：佐々木弘記（中国学園大学）までお送りください。

発表申込締切は、2019年4月22日（月）です。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <http://www.jsse.jp/~kenkyu/2018/WritingGuidelineFrom2018.pdf>〉

原稿の提出締切は、2019年5月12日（日）です。

次のウェブサイトから投稿してください。

〈<https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「中国支部」を選んでください。

原稿提出が指定の期日に遅れますと、投稿できなくなり、自動的に取り消しとなりますので、ご注意ください。

投稿完了メールは〈[info\(atmark\)jsse-kenkyukai-form.jp](mailto:info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp)〉より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 中国支部長 栢野彰秀（島根大学）

2018 年度 第 7 回日本科学教育学会研究会（関西支部開催）

[テーマ] 新時代を創造する科学教育研究

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2019 年 6 月 1 日（土） 時間未定

[会場] 姫路商工会議所

〒670-0932 兵庫県姫路市下寺町 43

[対象] 会員，教員，学生，社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。参加費は無料です。

[問い合わせ] 2018 年度第 6 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：山本智一

〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1 兵庫教育大学 小学校教員養成特別コース

Tel/Fax : 0795-44-2144

E-mail : [ttyamamo\(atmark\)hyogo-u.ac.jp](mailto:ttyamamo(atmark)hyogo-u.ac.jp) (山本智一)

[発表申込・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員：山本智一（兵庫教育大学）までお送りください。

発表申込締切は、2019 年 4 月 22 日（月）です。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <http://www.jsse.jp/~kenkyu/2018/WritingGuidelineFrom2018.pdf>〉

原稿の提出締切は、2019 年 5 月 12 日（日）です。

次のウェブサイトから投稿してください。

〈<https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「関西支部」を選んでください。

原稿提出が指定の期日に遅れますと、投稿できなくなり、自動的に取り消しとなりますので、ご注意ください。

投稿完了メールは〈[info\(atmark\)jsse-kenkyukai-form.jp](mailto:info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp)〉より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 関西支部長 松本伸示（兵庫教育大学）

国際学会参加報告 (56)

-2018 International Conference of East-Asian Association for Science Education (EASE)-

2018年11月29日から12月2日に台湾・花蓮県の国立東華大学 (National Dong Hwa University) において、東アジア科学教育学会国際カンファレンス 2018 (2018 International Conference of East-Asian Association for Science Education : EASE2018) が開催された。本カンファレンスは現地の科学教育に関する学会が主催する第34回 2018 International Conference of Science Education in Taiwan と共同開催され、5つの基調講演と、150本以上の研究発表やフォーラム、ワークショップが展開された。

カンファレンスには日本、台湾、韓国、中国、香港のEASEの幹事国に加えて、インドネシアやフィリピンなどのアジア各国や連携協定を結んでいるASTE (The Association for Science Teacher Education) のメンバーなど多様な国々から研究者や大学院生、大学生が参加した。

EASEでは、博士課程学生向けのサマースクールと隔年開催で国際カンファレンスを実施しており、サマースクールで各国のメンターによってブラッシュアップをされた研究内容を国際カンファレンスで発表するという循環ができつつある。報告者も2017年に実施されたサマースクールに参加し、当該の研究内容をブラッシュアップした内容で研究発表を行ない、EASE2018においてYoung Scholar Awardを受賞した。Young Scholar Awardは、一般的な優秀論文賞と異なり、受賞者の経歴や研究業績を重視して審査されるという特徴があり、若手研究者養成に力を入れていることがこうした賞の設定からも伺える。今回は8名が受賞し、日本からの受賞者は報告者のみであった。また、年次総会を経て、静岡大学の熊野善介教授が次期会長に決まり、EASEにおいても日本のプレゼンスが高まることが期待され、さらなる国際的な研究活動等の発展が期待されている。

大学院という研究者にとっての修業時代にこうした海外での研鑽を積むことができる環境があるということに感謝するとともに、より多くの博士学生が研究者がサマースクールに参加し研鑽を積み、国際カンファレンスで発表し議論を深めるという環境が発展することを切に願っている。

最後に、EASE2018での受賞にあたり、EASE2018のサマースクールでメンターをしてくださった指導教官でもある熊野善介教授とWAN Zhihong博士に改めて感謝申し上げます。

次回のEASEサマースクール(2019年)は静岡大学での開催が予定され、EASE2020国際カンファレンスは2020年に韓国での開催が予定されている。



全体講演の様子



Young Scholar Award の受賞式

(静岡大学/愛媛大学 黒田友貴)

国際学会開催情報

2019 年

International Conference on Society and Information Technologies: ICSIT 2019

開催地 : Orlando, Florida, USA

期 間 : 2019 年 3 月 12 日-15 日

<http://www.2019iisconf.org/icsit>

Social and Artificial Intelligence for User-Friendly Robots

開催地 : Shonan Village, Japan

期 間 : 2019 年 3 月 17 日-24 日

<https://inic8.bitbucket.io/SoAIR19/>

Society for Information Technology and Teacher Education (SITE)

開催地 : Las Vegas., USA

期 間 : 2019 年 3 月 18 日-22 日

<http://site.aace.org/conf/>

The International Technology and Engineering Educators Association Annual Conference (ITEEA)

開催地 : Kansas, USA

期 間 : 2019 年 3 月 27 日-30 日

https://www.iteea.org/Activities/Conference/ITEEA_Conference_2018.aspx

National Council of Teachers of Mathematics Research Conference (NCTM)

開催地 : San Diego, USA

期 間 : 2019 年 4 月 1 日-3 日

<https://www.nctm.org/Conferences-and-Professional-Development/Research-Conference/>

National Council of Teachers of Mathematics Annual Meeting & Exposition (NCTM)

開催地 : San Diego, USA

期 間 : 2019 年 4 月 3 日-6 日

<https://www.nctm.org/Conferences-and-Professional-Development/Annual-Meeting-and-Exposition/>

INTERNATIONAL WORKSHOP ON SPOKEN DIALOGUE SYSTEMS TECHNOLOGY (IWSDS) 2019

開催地 : Sicily, Italy

期 間 : 2019 年 4 月 24 日-26 日

Smart Electrical Engineering SEE'19

開催地 : Oxford City, United Kingdom

期 間 : 2019 年 4 月 29 日-30 日

<https://disp-conference.org/index.php/workshops/see-19>

Learning Information Literacy across the Globe 2019

開催地：Frankfurt Main, Germany

期 間：2019年5月10日

<https://informationliteracy.eu/conference/>

Workshop on Managing the Evolution and Preservation of the Data Web - MEPDaW 2019

開催地：San Francisco, USA

期 間：2019年5月13日-14日

<https://mepdaw2019.ai.wu.ac.at/>

The Fifth International Workshop on "Defeasible and Ampliative Reasoning" (DARe)

開催地：Philadelphia, USA

期 間：2019年6月3日-4日

<https://sites.google.com/view/dare-19/>

World Conference on Robotics and Artificial Intelligence

開催地：大阪, 日本

期 間：2019年6月10日-12日

<https://scientificfederation.com/wcrai-2019/>

International Conference on Web Engineering

開催地：Daejeon, South Korea

期 間：2019年6月11日-14日

<http://icwe2019.webengineering.org/>

International Evidence Based Library and Information Practice Conference

開催地：Scotland, United Kingdom

期 間：2019年6月15日-19日

<https://eblip10.org/Registration/tabid/7715/Default.aspx>

6th international conference on Smart Education and E-Learning (SEEL-19)

開催地：St Julians, Malta

期 間：2019年6月17日-19日

<http://seel-19.kesinternational.org/>

World Conference on Educational Media and Technology (EdMedia)

開催地：Amsterdam, Netherlands

期 間：2019年6月24日-28日

<https://www.aace.org/conf/edmedia/>

International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME)

開催地 : Pretoria, South Africa

期 間 : 2019 年 7 月 7 日-12 日

<https://www.up.ac.za/pme43>

Conference on ICT, Society and Human Beings

開催地 : Porto, Portugal

期 間 : 2019 年 7 月 17 日-19 日

<http://ict-conf.org/>

International Conference on Natural Computation, Fuzzy Systems and Knowledge Discovery (ICNC-FSKD 2019)

開催地 : Kunming, China

期 間 : 2019 年 7 月 20 日-22 日

<http://www.icnc-fskd.ynu.edu.cn>

「平成 30 年度第 3 回日本科学教育学会研究会」報告

2018 年 12 月 8 日、「次世代の科学教育研究」をテーマに若手活性化委員会担当の第 3 回研究会が、日本体育大学（東京・世田谷キャンパス）において開催されました。今年も昨年度と同様に、ポスター・マッドネス&セッションだけでなく、ワークショップ「研究会原稿をブラッシュアップして『科学教育研究』に投稿しよう！」も実施いたしました。ワークショップの参加者は約 60 名、ポスターセッションの参加者は約 100 名となり、若手活性化委員会が担当してきた研究会の中でも最大規模の会となりました。

ワークショップでは、研究会原稿を『科学教育研究』の投稿論文にブラッシュアップするにはどうすればよいか、『科学教育研究』の査読の観点に基づいて、特に「問題設定・目標の記述」の観点を検討するグループワークを行いました。グループワーク全体の司会は、舟橋友香先生（奈良教育大学）と大塚慎太郎先生（敬愛大学）に担当していただきました。他の若手活性化委員は各グループのファシリテーターとなって、原稿の記述について議論を進めました。グループワークの直前には山口悦司先生（神戸大学）からのショートレクチャーがあり、新規性・意義の明確さや文章の読みやすさなど論文執筆において配慮すべき点を確認していただきました。ワークショップの最後には杉本雅則先生（北海道大学）からのラップアップがあり、論文の書き方について改めて確認していただきました。さらに、『科学教育研究』編集委員長の二宮裕之先生（埼玉大学）からのコメントもいただくことができました。参加者からは「ワークショップでの論文の執筆法に関してはとても勉強になりました」、「論文の書き方について学べた」などの感想をいただきました。グループワークで得られた示唆をもとに、ブラッシュアップした論文をぜひ投稿していただければと思います。また、この場を借りて、ワークショップにおける検討対象の原稿をご提供して下さった先生方に厚く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

毎年恒例のポスター・マッドネスでは、30 秒という短い時間の中で、発表者の個性を存分に発揮した独創性の高いプレゼンテーションが行われ、自身の研究の魅力を効果的に伝えていました。その後のセッションでも、参加者同士の活発な議論が行われ、大いに盛り上がりました。参加者からは「他教科がご専門の方と交流ができ、とても刺激になった」などの感想をいただきました。参加者の投票の結果、今回のベスト・プレゼンテーション賞に選ばれた方は以下の 3 名でした。素晴らしいプレゼンテーションで研究会を盛り上げていただき誠にありがとうございました。

北堀榛花（明治学院大学大学院心理学研究科）：

小学校算数科の文章題解決における図の活用に関する一考察 2—加法・減法の場面に焦点をあてて—
石橋一昂（広島大学大学院教育学研究科）：

数学的モデル化の観点から見た学習者の解の吟味を支援する教材の条件—方程式の文章題を中学 2 年生が解決する過程の分析を通じて—

上ヶ谷友佑（広島大学附属福山中・高等学校）：

学習者にとって何が本当に「困難」なのか？—中学 2 年生の代数的操作に関する「擬困難性」の推論主義的分析—

若手活性化委員会では、このような研究会や年会企画の運営に携わっていただくボランティア参加者を毎回募っています。今回は15名の皆様に会場設営、受付業務などを手伝っていただきました。以前にボランティアとして参加していただいた学生が今回も参加しており、その経験を教えたり互いにより良い作業方法を検討したりして、研究会が前回よりもさらに円滑に進行していたように思います。運営ボランティアの皆様、朝早くから本当にありがとうございました。この経験が今後の研究生活の役に立てば幸いです。



ワークショップ



ポスター・マッドネス



ポスターセッション

日本科学教育学会第43回年会 若手チュートリアル&スタートパーティ予告

2019年8月23日（金）～25日（日）に宇都宮大学で開催されます日本科学教育学会第43回年会において、チュートリアル、スタートパーティを大会初日の8月23日（金）に開催予定です。

●チュートリアル

「はじめての『科学教育研究』」というテーマで行う予定です。今回のチュートリアルでは、教育実践を対象とした実態調査や開発検証を想定し、どのように文献をレビューするのか、どのように研究の問いを立てるのか、といった「研究の目的の設定」に特化したレクチャーやグループワークを予定しています。具体的には、実態調査や開発検証といった研究アプローチで『科学教育研究』への採録経験がある先生をゲストスピーカーにお招きし、研究に着手したときのエピソードや苦労話について語っていただきます。そして、ゲストスピーカーの生の声をもとに、参加者のみなさんと知識や経験を共有し、「研究の目的の設定」にいたるまでの具体的な方法やその留意点を、参加者のみなさんの「お土産」として持って帰っていただく予定です。

●スタートパーティ

若手研究者の交流の活性化を図る「スタートパーティー」を今年も開催します。会場は宇都宮駅周辺のお店を予定しております。

※今年フィールドワークを予定しておりません。ご留意ください。

その他

情報は、若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで続々公開しております。どうぞ期待下さい。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

(日本女子大学・大谷洋貴)

(日本体育大学・雲財寛)

若手を対象とした特集のお知らせ

編集委員会では、若手活性化委員会と連携し、下記の主旨で「科学教育研究」第43巻第4号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります。また、この特集には投稿条件が設定されています。その点ご注意ください。

編集委員長 二宮裕之
特集編集部会長 雲財寛

記

特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

昨年、本学会における初めての試みとして、若手会員を対象とした特集を企画した。これは、本学会が学会として取り組む若手研究者の支援の一環に位置付けられるものであり、具体的には、若手活性化委員会が担当する研究会と連携した企画であった。

この特集には、若手会員を筆頭著者とする計14編の投稿があり、現在、それらの査読が継続中である。現時点においてはまだ編集途中であるために、この特集の成果を総合的に評価することはできないが、若手会員からの投稿を促進できたという点については一定の成果があったと暫定的に評価することができる。

今回の特集は、前回に引き続いて、若手会員を対象とした特集の企画である。具体的には、前回と同様に、特集編集部会のメンバーが若手活性化委員会担当の研究会に参加し、(1)若手会員の研究発表に対して建設的なコメントを行う、(2)学会誌投稿に向けた若手会員からの相談を受ける、(3)本特集への論文投稿を積極的に促進する、という若手会員の学術論文の公表支援を取り入れる。若手会員の学術論文の公表の支援を取り入れた特集を継続的に行うことで、若手会員の研究活動の支援を充実するとともに、科学教育という学術領域における新しいムーブメントの萌芽を発掘することを目指す。

特集編集部会の構成メンバー

部会長：雲財寛（日本体育大学）

副部会長：出口明子（宇都宮大学）

特集編集部会委員：舟橋友香（奈良教育大学）、山口悦司（神戸大学）、北澤武（東京学芸大学）、鈴木栄幸（茨城大学）、大谷洋貴（日本女子大学）、高橋聡（東京理科大学）、江草遼平（明治学院大学）、大塚慎太郎（敬愛大学）、杉本雅則（北海道大学）、吉田実久（神戸大学）、大浦弘樹（東京工業大学）、大野美喜子（産業技術総合研究所）、木村優里（東京理科大学）、山田真子（長崎大学）、島田和典（東京学芸大学）、中原久志（大分大学）など

投稿条件

以下の3点の条件全てを満たした投稿を受け付けます。これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては、一般論文としての査読対象とさせていただきます。あらかじめご承知おきください。

(1) 以下の (a) か (b) のいずれかを満たす学会員が、投稿論文の筆頭著者となっていること。

(a) 投稿締切日時点で、39歳以下である。

(b) 投稿締切日時点で、博士の学位取得後8年未満(※)である。

(※) 博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となることを含む。

(2) 若手活性化委員会が担当する研究会(開催日:2018年12月8日,会場:日本体育大学)で、筆頭著者として研究発表をすること。

(3) 上記(2)の研究発表内容に基づいた論文であること。

事前申込締切:2019年2月28日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため、事前申込を必須とします。投稿を予定している方は大変お手数ですが、著者名・所属、仮タイトル、論文種別、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所を [jsse-hen\[atmark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[atmark]nacos.com) までお送りください。

投稿受付開始:2019年1月1日

投稿締切:2019年3月31日

*特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順5:設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については、一般論文としての査読を継続いたします。

発刊予定:2019年12月

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

前号（240号）以降，編集理事会は開催されていないため，「科学教育研究」編集状況のみ報告する。

1. 新規投稿論文（2018.11.1～2019.1.31）：17編（内訳：和文17編，英文0編）
2. 査読中論文（2019.1.31現在）：27編（内訳：担当編集委員選定中：1編，査読者選定中：2編，査読中（1回目）：8編，担当編集委員による第1審総合判定中：0編，改訂稿待ち：8編，査読中（2回目）：6編，担当編集委員による第2審総合判定中：2編，編集委員長による最終判定中：0編）
3. 掲載決定論文（2018.11.1～2019.1.31現在）：7編（内訳：研究論文7編，総説・展望0編，資料0編，プラザ0編（通算合計43-1：2編（通算4編）43-2：5編（通算5編））

次回，2018年度第2回編集理事会は，2019年3月16日（土），12:00～14:00，場所は内田洋行新川本社を予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（2019年1月31日現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2018年 2月	7	0	30	1	1 (42-2) 0 (42-3)	0 (42-2) 0 (42-3)	0		3	0
2018年 3月	15	0	37	1	4 (42-2) 0 (42-3)	0 (42-2) 0 (42-3)	1 (42-2)		3	1
2018年 4月	14	0	42	0	1 (42-2) 3 (42-3)	0 (42-2) 0 (42-3)	0		4	2
2018年 5月	5	0	35	0	1 (42-2) 3 (42-3)	0 (42-2) 0 (42-3)	0	1 (42-2)	8	0
2018年 6月	6	0	35	0	3 (42-3) 0 (42-4)	0 (42-3) 0 (42-4)	0		3	0
2018年 7月	6	1	35	1	1 (42-3) 1 (42-4)	0 (42-3) 0 (42-4)	0		3	1
2018年 8月	6	1	30	1	6 (42-4) 0 (43-1)	0 (42-4) 0 (43-1)	0		6	0
2018年 9月	4	0	16	1	9 (42-4) 1 (43-1)	0 (42-4) 0 (43-1)	0		7	2
2018年 10月	14	0	26	1	0 (42-4) 1 (43-1)	0 (42-4) 0 (43-1)	0		2	1
2018年 11月	5	0	24	1	0 (42-4) 1 (43-1)	0 (42-4) 0 (43-1)	0		6	0
2018年 12月	4	0	26	1	1 (43-1) 0 (43-2)	0 (43-1) 0 (43-2)	0		1	0
2019年 1月	8	0	27	0	0 (43-1) 5 (43-2)	0 (43-1) 0 (43-2)	0		4	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 241 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：舟生日出男（創価大） 谷塚光典（信州大）

委員：久保田善彦（宇都宮大） 益川弘如（聖心女子大） 竹中真希子（大分大）
縣 秀彦（国立天文台） 加納寛子（山形大） 島田和典（東京学芸大）
高橋 聡（東京理科大）

幹事：辻山洋介（千葉大） 石崎友規（常磐大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会